

氷川神社
社報 第十五号

武蔵一宮



例祭 神幸祭齋行

八月一日午前十時より例祭を齋行致しました。畏き辺りより勅使として掌典の唐橋在倫様の御参向のもと厳肅に行い、皇室の弥栄と氏子崇敬者の幸福を祈念致しました。



静かな境内を参進する勅使

神社本庁統理の御名代に神社本庁総長である石清水八幡宮（京都府）の田中恆清宮司、大野元裕埼玉県知事、清水勇人さいたま市長、大野総代会会長はじめ氏子総代、埼玉県神社庁庁長である三峯神社の中山高嶺宮司、



一定の間隔を空けた参列者

県内神職、限定して招待した崇敬者など約一四〇名の御参列を頂きました。御参列にあたっては密集とならないよう二メートルの間隔を空けて椅子を配置し、玉串拝礼時には授与する神職はマスク着用、手指をアルコール消毒して実施、祭典後の直会は中止と致しました。



本殿に還御する神輿



舞殿での橋上祭

例年、勅使奉迎のための各町内山車・神輿の参集は、本年中止と致しました。例祭にあわせ市内で開催されます中山道まつりや花火大会も本年は中止となりました。

八月二日午後三時、神幸祭を齋行致しました。例年では旧神領地の六町内（堀の内、土手、大成、上落合、新開、東大成）の氏子約百名の皆様に神輿などの担ぎ手となって頂いておりませんが、本年は中止とし、神職が舞殿に神輿を遷し、橋上祭を舞殿で齋行しました。

尚、旧神領地の各町内からは代表として氏子総代の皆様に御参列頂き、例年通り神饌の奉納を頂きました。

奉納御礼

例祭に際し左記の皆様より奉納を頂きました。御篤志に感謝申し上げます。（順不同敬称略）

- みずほ証券(株)大宮支店
- 立正佼成会大宮教会
- (株)ノースコーポレーション
- (株)築太樓總本舗
- 北西酒造(株)
- (株)電成社
- (株)和泉空調設備
- (株)中村写真館
- (有)Saintarrows
- サン・アドニス(有)
- (株)みどり建設
- (株)武蔵野銀行
- 丸三屋
- 解脱会
- 福寿堂
- 久伊豆神社
- 篠竹静子
- 高木洋明
- 藤野泰功



祭事暦

当社では毎日の日供祭をはじめ年間約七十の祭典を行い、謹んで御皇室の弥栄と国家安泰、五穀豊穰と氏子崇敬者の繁栄を祈願しております。

七月 一日 月次祭

十五日 献詠祭(兼題 南風)

三十一日 例祭前日祭

八月 一日 例祭

二日 神幸祭

十五日 献詠祭(兼題 祭)

埼玉縣護國神社みたま祭

九月 一日 月次祭

十五日 献詠祭(兼題 献華)

敬老祭

二十三日 秋季皇霊祭遙拝式

秋分祭



献詠祭では、八雲会会員による和歌が奏上されております。

雪洞書画奉納者

(順不同敬称略)

- | | |
|--------|-------|
| 内田 すぐ子 | 寺井 朴堂 |
| 堀澤 節 | 山田 郁子 |
| 田邊 勝江 | 小林 瞳 |
| 牧野 安甫 | 飯野 直紀 |
| 牧田 範男 | 加藤 正 |
| 秋山 静子 | 葩島 雲外 |
| 金田 石城 | 山北 知子 |
| 高橋 憲房 | 清水 昌子 |
| 島崎 英子 | 吉澤 公子 |

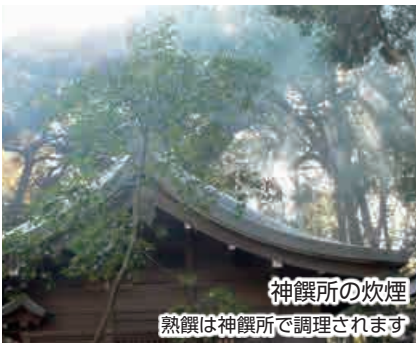


神饌

神饌とは古来、ミケといい神様にお供えする飲食の総称です。お祭りは神様への饗応の形をとっておりますので、神饌をお供えする事は非常に大切です。調理をしていない神饌は生饌といい、通常の神饌にあたります。数量や種類に違いはありますが、毎日の日供祭や例祭では生饌がお供えされます。調理した神饌は熟饌といわれ、そのお祭りの特色となっております、その歴史を紡いでいます。

当社では神幸祭(橋上祭)の小麦御飯や大湯祭の百味膳などが熟饌にあたります。神幸祭はもともと旧暦六月に行われていた祭典で、小麦の収穫儀礼を象徴し、拝殿や神橋での祭典時にはさいたま市中央区の上落合地区から奉納の小麦藁の莖が敷かれます。これはこの一帯が、かつて麦作地帯であった事を伝えるものといえます。

現在のように本殿が一つになる前の、男体社と女体社と簸王子社であった時代の神幸祭は、男体社と女体社の神霊を神輿に遷し仮殿で一泊し、橋上祭の後に簸王子社に神幸するということでした。



神饌所の炊煙
熟饌は神饌所で調理されます



橋上祭 神饌



例祭神饌 翼合

社頭往来

七五三セツトプラン説明会

七月五日より貸衣裳と写真撮影がセツトになった七五三の説明会が始まりました。



例祭前清掃奉仕

七月二十七日午前九時より例祭前の神域清掃奉仕が行われました。本年は当番町内である宮原町、吉野町の氏子の他、氏子青年会、敬神婦人会、八雲会、解脱会の皆様にご奉仕頂きました。



神前読経

七月二十七日午後三時半、各一宮を巡る日蓮宗の僧侶有志六名が正式参拝をされました。その後、コロナウィルスの終息を願い、神前読経が行われました。



見沼田んぼの小麦奉納

七月三十日午前十一時、小麦を奉納の武蔵野銀行様、クラフトビールを奉納の氷川ブリュワリー様参列のもと、奉納奉告参拝を行いました。こちらの小麦は、見沼田んぼを舞台にさいたま市内での小麦の地産地消を促進する事を目的とした、「見沼田んぼ」小麦“6次産業創造プロ

ジェクト」の小麦です。クラフトビールはこちらの小麦を醸造し作られたものです。



助勤説明会

令和三年正月に御奉仕頂く助勤の希望者に向け説明会を実施致しました。一日から七日までで男子三十名、女子百五十名募集の予定です。八月三十日に第一回説明会を実施致しました。



婚礼展示会

八月三十日午後一時より四時まで、呉竹荘にて婚礼展示会が開催されました。



柳生心眼流兵法奉納演武

九月六日午前十時、正式参拝の後、柳生心眼流兵法柳正館会員により奉納演武がございました。



秋の祭典 新嘗祭

十一月二十三日には収穫感謝のお祭りである新嘗祭が行われます。宮中では天神地祇を祀る神嘉殿において、天皇陛下が天照大御神を始め、神々に本年の新穀を御親供なされて自らもお召し上がりになるお祭りが行われます。

お米が食物の中でも特に神聖とされるのは、天照大御神が天孫降臨の際に高天原の稲穂を授けた事に由来します。「齋庭の稲穂の神勅」といわれる三大神勅の一つが新嘗祭の起源で、その他の三大神勅は皇位の永遠を聖約する「天壤無窮の神勅」、伊勢の神宮の起源でもある「宝鏡奉斎の神勅」となっています。

新嘗祭の祭典日は、古くは干支によっていたため、日が定まっておらず、十一月の下の卯の日に行われておりましたが、明治六年の新暦採用から十一月二十三日に定められました。

当社では新嘗祭にあわせ、当社を崇敬する敬神講社の講員の

ための講社大祭が斎行されます。町内ごとの取りまとめは、それぞれ地域の氏子総代の方々をお願いしております。



冬の祭典 大湯祭

大湯祭は明治初頭まで当社の境内にそれぞれ社殿が鎮座していた男体社・女体社・簸王子社三社のうちの簸王子社の祭祀です。至徳二年(1385)の「武蔵州足立大宮氷川大明神縁起之書」によると、十二月十日に干柴薪を焼いて炉壇のようにし、これをあまねく足で踏む火剣祭礼を行うとあります。

大湯祭の名前の由来は、簸王子社の社殿前に湯釜を据え、この湯で庶人を清めた事と伝えられており、江戸期になって清祓の神事に祭り替えが行われました。

現在は十一月三十日より十二月九日まで前斎、十日が本祭、十一日が後斎で十二日間からなるお祭りです。

前斎は厳重な潔斎期間で、毎夜七時半にかつての火祭りを伝える篝火が焚かれ儀式が行われます。この火にあたると、無病息災の神徳にあずかるといわれ、祭典終了後に消し炭を持ち

帰り家内安全、無病息災の神徳を祈る信仰もございませう。

本祭は午前八時に始まり、米・酒をはじめ、特殊神饌である百味膳、更に菱餅・海老・長芋・鮎串などを本社並びに摂末社にお供えします。

後斎は、大湯祭終了の旨を神前に奉告し、祭典後、饗膳式という直会が斎館で行われ、神職が「幾久、幾久」と社頭隆盛の言祝ぎを発し、神酒を拝戴します。



日本書紀編纂一三〇〇年④

おみくじ読み解き (複数の伝承を組み合わせた意訳です)

当社のおみくじは一番から五十番まであり古事記、日本書紀の伝承から事象や神名などを題としております。神名はこの解説では日本書紀での表記を使用しております。
 (一)はおみくじの番号と題です。

大己貴と少彦名の国づくり



大己貴と少彦名の国づくり

大己貴が出雲の御大の御前にいた時に、波の彼方から天之羅摩船というガガイモの殻の船に乗り、鵜(蛾)。一説では雁の皮を衣服にした小さな神がやってきました。誰もその神を知りませんでした。物知りの案山子が、「この神は神産巢日神の子の少彦名です」と教えてくれました。神産巢日から協力して国作りをするよう命じられた二柱の神はよく様々に国作りをしました。少彦名は淡島に行き粟の莖に上った際に、弾かれて常世の国という海の彼方に飛ばされてしまいました。少彦名を淡島の神というのはこれが由来です(三十二番 少名毘古那神)。一人残された大己貴が悲しんでいると海上を照らしやってくる神がいました。

「何者か問う」と「私 はあなたの幸福奇魂である。私を祀れば共に国づくりをしよう」と答えました。この神は三諸山(三輪山)に祀られ、大輪之神と伝えられております(三十三番 幸福奇魂)。

大己貴の国譲り



大國主命(大己貴の別名)

天照大神は孫の瓊瓊杵尊を地上界である葦原中国の主にしてようと思いました。しかし、そこは悪しき神や邪鬼が多くいると聞き、祓い退ける必要があります(三十四番 國平御讓)。そこで、八百万の神々が集まり、知恵の神様である天思金命を中心に誰を行かせるか話し合いました(三十五番 天思金命)。まず白羽の矢が立ったのが天穗日命でしたが、この神は大己貴に媚びてしまい帰ってきませんでした(三十六番 天菩日命)。次に行かせた天稚彦もまた、大己貴の娘の下照姫を妃として帰ってこなかったため、経津主神と武甕槌神を行かせる事になりました(三十七番 経津魂)。二柱の神は、大己貴に国を譲るよう迫ると、大己貴は「息子と相談してから返答する」と答えました(三十八番 御國避)。そこで出雲の三穗之碕にいる事代主神に

問うと、「国を譲るのが良いでしょう」と答えました(三十九番 三穗崎)。大己貴は二柱の神に「この国を譲りましょう。ただ、立派な宮殿を建て私が祀られる事をお許し下さい。そして私の他の百八十神の子は事代主が統率するならば、他に背く神はおりません。」と答え、国譲りが行われたのでした(四十番 杵築宮造)。

天孫降臨



天孫降臨

大己貴の国譲りを受け、いよいよ天孫である瓊瓊杵尊が天照大神より三種の神器を授かり、天兒屋命をはじめ様々な神々と共に天降る事となりました。(四十一番 御天降)。この時、高皇産靈尊は天兒屋命と太玉命に、天津神籬を持って降り天孫のために祭祀を行うように勅命を下しました(四十二番 天津神籬)。瓊瓊杵尊らが降ろすとすると天と地の間で、国つ神の猿田彦が道案内を申し出てきました(四十三番 猿田毘古命)。そして、日向国の高千穂に降臨なされました。

資料提供：埼玉県神社庁
 絵：笠原正夫氏

日向三代

瓊瓊杵尊の物語

瓊瓊杵尊は日向国の海辺に行ってみると、美しい木花開耶姫という大山祇神の娘に出会いました(四十四番 日向宮)。一目で恋に落ちた瓊瓊杵尊は求婚を申し込むと、大山祇は大いに喜び姉の磐長姫も是非妻にと送ってきました。しかし、瓊瓊杵尊は磐長姫を醜いと拒否して送り返してしまいました。磐長姫は大いに嘆き、「私を拒まずに子を成していたならば、その命は磐のように永いものになったでしょう。しかし妹だけを妻としたからには、その命は花のように儂いものとなるでしょう」と言いました。世の人に寿命が出来たのはこの為という事です(四十五番 御后迎)。

瓊瓊杵尊と一夜を共にした木花開耶姫は身籠りましたが、瓊瓊杵尊は自分の子ではないのではないかと疑いました。木花開耶姫は「天孫の子であれば無事に出産出来るでしょう」と言い、出入り口の無い建物に入り火をつけて出産しました。火の起り始めの頃に火酢芹命、火の盛んな頃に火明命、そして火の収まる頃に火火出見命です。火酢芹命は海幸、火火出見命は山幸とも申します(四十六番 無戸室)。

海幸 山幸

海幸は海で釣りを、山幸は山で狩りを得意としていました。ある時、兄弟は仕事を交代してみる事にしたのですが、互いうまくいかず、山幸は借りた釣り針を無くしてしまいました。新しい釣り針を作っていくら謝っても許してもらえないので、途方に暮れた山幸は海辺で出会った鹽土老翁に事情を話しました。(四十七番 鹽土老翁)。鹽土老翁は山幸を籠の中に入れて海神の宮殿へと運んでくれました。宮殿の前には井戸があり、傍らの木に登り様子を伺っている、宮殿から海神の娘である大変美しい豊玉姫が出てきて井戸で水を汲もうとしました。井戸の水面に映る山幸に気づき、出会った二人はたちまちに恋に落ちました。宮殿に入り事情を聞いた海神は釣り針を飲み込んだ鯛を探し出してくれました(四十八番 綿積宮)。

山幸は三年を海神の宮殿で過ごしましたが、地上に帰る事が出来ました。その後、山幸の子を身籠っていた豊玉姫は、山幸の干満を操れる二つの玉を渡してくれ、山幸は海幸を従わせる事が出来ました。その後、山幸の子を身籠っていた豊玉姫は、山幸のいる地上で産もうとし、産屋を建てていましたが、その屋根を葺き終える前に産気づきました。豊玉姫は出産の姿は決して見ないようにと話しましたが、山幸はこっそり覗いてしまいました。中には出産に苦しむ鯛(鮫)がおり、山幸は驚き逃げてしまいました。これに怒った豊玉姫は出産を終えると海へと帰ってしまいました。この時、生まれた子は屋根を葺き終える前に生まれた事から鸕鷀草葺不合尊といえます。山幸は豊玉姫を恋しく思う和歌を詠み、海へと帰った豊玉姫もまた、山幸を恋しく思う気持ちを抑えきれず、子の世話を妹の玉依姫に託し、山幸を想う和歌を詠んだのでした(四十九番 赤玉神詠)。



仕事を交代した海幸 山幸



山幸と鹽土老翁



海神の宮で出会う山幸と豊玉姫



約束を破ってしまう山幸



参道に残る
信仰の記憶(石造物)

一の鳥居周辺



①「武蔵國一宮」の標石。享保七年(一七三二)氏子中の奉納。慶応四年(一八六八)に官軍が大宮に宿泊する際、この標石に「氷川大明神」と神仏習合色の強い銘があった為、基壇基礎を残し脇に片付けられた模様。明治十四年に背面に「官幣大社 氷川神社」と彫り再建。戦後、米軍の命令で「官幣大社」の部分をコンクリートで埋めている。現存する石造遺物の中で最も古いもの。

②石燈籠一对。安政三年(一八五六)深川の丸屋七右衛門寄進の常夜燈。石工は岩槻の田中武兵衛。



1 表



1 裏



2

③石幟立。嘉永二年(一八四九)吉鋪町氏子中の寄進。氷川神社の祭日に際し幟を立てる習慣は他に仲町・大門町(大宮区)などにもあったとの事。



3



4



5

④「是より宮まで十八丁」の碑。寄進者は高鼻町の大沢鉄雄氏、世話人として仲町の太野弥平氏、土手町の北沢怡佐雄氏、高鼻町の高橋喜種氏で平成元年の奉納。石工は立入石材。

⑤石燈籠。「氷川大明神」の銘。宝暦十年(一七六〇)吉鋪町講中の寄進。鋪は鋪の本字。丁石は一丁(六十間、約一〇九メートル)ごとに、参道東側に建てられています。



丁石は一丁(六十間、約一〇九メートル)ごとに、参道東側に建てられています。



二の鳥居周辺



⑥「官幣大社氷川神社」の石碑。明治三十二年（一八九九）大宮町松坂屋の尾熊惣次郎が先代尾熊初五郎の遺志を継ぎ建立。弟の尾熊政之助書。中村金五郎彫。



⑦石燈籠一对。嘉永六年（一八五三）近隣をはじめ、鳩ヶ谷宿や立野邑、江戸など広範囲の氏子崇敬者の奉納。
 ⑧（株）武蔵野銀行より創業六十五年記念として、奉納された狛犬。竣工祭及び除幕式は平成三十年十二月二十五日。稲田石を用い、左側は獅子型、右側は狛犬型で株式会社石の正、鈴木石材の製作。

二の鳥居く三の鳥居間



二の鳥居く三の鳥居間
 ⑨石燈籠。安政六年（一八五九）近遠の氏子中からの奉納。「武蔵國一宮東國總鎮守氷川両本宮」の銘。物部周臣書。石工は吉田右近源朝保。
 ⑩石燈籠。文化十四年（二八一七）近遠の氏子中からの奉納。「氷川大宮御橋内」「武蔵國總鎮守一宮式内名神大月次新嘗」の由緒。御橋とは神橋の事。平林可儀書。石工は与野の佐藤太平次光重。



古絵葉書集
 「氷川の社を訪ねて」より

鳥居奉納奉告祭

稲荷神社にて鳥居奉納奉告祭を執り行いました。奉納された鳥居にはお名前とご希望の願種を記載した札をお掛けします。設置期間はおおよそ十年です。

七月 十八日 石原徹也
七月 二十七日 山崎広徳



七月の奉納献華

古流松藤会	岩波理豊	池坊	草谷智花
草月流	沖山草俊	桂古流	小林華侑
古流松藤会	川嶋理智	桂古流	高橋典花



八月の奉納献華

桂古流	高橋典花
草月流	竹下尚峰
正風流一光会	桐生一光
池坊	草谷智花
古流松藤会	岩波理豊
草月流	沖山草俊
桂古流	小林華侑
古流松藤会	川嶋理智



九月の奉納献華

古流松藤会	岩波理豊	桂古流	小林華侑
池坊	草谷智花	古流松藤会	川嶋理智
草月流	沖山草俊	桂古流	高橋典花
草月流	竹下尚峰		
正風流一光会	桐生一光		
春草流	栗原春彩		

正式参拝及び諸会議

(敬称略)

七月	一日 敬神婦人会役員会
	二十七日 日蓮宗僧侶有志
	三十日 武蔵野銀行
	水川プリユワリー
八月	三十日 助勤説明会
	婚礼展示会
九月	一日 参道対策会議
	五日 武蔵菊花会役員会
	六日 柳生心眼流兵法柳正館
	十五日 敬神講社理事会、評議員会

参道清掃奉仕御礼

参道の清掃活動を頂きました皆様の芳名を紹介し、謹んで御篤志に感謝申し上げます。

(五十音順、敬称略)

- ・阿含宗埼玉道場
- ・大宮明るい社会づくりの会
- ・みずほ証券株式会社

奉納御礼

マスク 医療法人社団 聡真会

武蔵菊花会菊展

十一月一日より十五日まで武蔵菊花会の第七十一回奉納菊花展が開催されます。楼門前や楼門内廻廊、舞殿などに大作りや懸崖、盆養、ダルマなど大きささまざまな菊が展示予定です。



観月雅楽演奏会中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染症防止のため、本年の氷川雅楽会観月雅楽演奏会は中止と致します。本年は、浦安の舞が皇紀二六〇〇年を奉祝して、昭和十五年に作舞されてから八十年になります。

浦安の舞は昭和天皇の御製に、多忠朝宮内庁楽部楽長が作曲作舞されて作製されました。浦安とは心安かれという意味で、古く日本の国が「浦安の国」といわれたのは風土が美しく穏やかであったからです。

平和への祈りが込められた浦安の舞が、感染症対策のためとはいえ、御覧頂けないのは大変残念な事ですが、皆様の安全を考慮しての事ですのでご理解の程、宜敷くお願い申し上げます。



昭和天皇御製

「天地の

神にぞいのる

朝なぎの

海のごとくに

波たたぬ世を」

七五三口ヶ撮影のご案内

氷川神社写真御用部では、お子様の大切な晴れの日を美しく残すため、約二十分間の口ヶ撮影を承っております。土日祝日で、期日限定です(予約不要)。撮影はプロカメラマンが担当し、撮影した写真は目つぶりカット等以外は、すべてお渡し致します。

詳細は(株)中村写真館のホームページをご参照下さい。



口ヶ撮影のみ(スタジオ撮影無し) 10,000円(税込)
口ヶ撮影 (スタジオ撮影有り) 7,000円(税込)
お問い合わせ先 (株)中村写真館 048-643-2890
<http://nakamura-syashinkan.com/index.html>

十日市中止のお知らせ

当社の冬の風物詩である大湯祭。十二月十日の本祭にあわせ酉の市がたつ事から、十日市とも呼ばれます。

例年、大勢の参拝者で賑う十日市ですが、本年は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、熊手商を含む露店の出店を見合わせる事と致しました。

祭典は例年通り斎行の予定ですが、社会情勢を鑑みての決定でございますので、氏子崇敬者の皆様におかれましては、ご理解を頂きますようお願い申し上げます。

尚、十二月十日のみ授与しておりました、福神札、福種銭などは分散してお求め頂けますよう、十一月三十日より神札所にて授与を開始致します。二福神のお祓いも行いますので、変わらぬご崇敬をお寄せ頂きますようご案内申し上げます。



大 3000円 小 1500円

氷川神社の福熊手授与は11月30日より神札所にて行います

初詣について

初詣の分散化のお願い

来る令和三年のお正月には氏子崇敬者の皆様が安心してご参拝を頂けますよう、左記の対応を予定しております。

記

- ・二の鳥居から参道一方通行化
- ・三が日の参道への露店出店中止
- ・ご祈祷の人数制限
- ・(二願種につき一名のみ)
- ・ご祈祷の神札記名は一万円以上
- ・(一月八日より五千円以上の方全員にお名前を記名致します)
- ・ご朱印は紙朱印のみ
- ・(帳面への記入は一月八日より)
- ・手水の使用禁止

令和二年十一月三十日より新年の神札、破魔矢、縁起物等を授与致しますので混雑を避けて参拝頂きます様ご協力をお願い致します。



https://www.instagram.com/musashiichinomiya-hikawa

秋の特別紙朱印「紅葉」は数量限定で9月1日より授与開始致しました。十日市、正月、時期の特別紙朱印の他、最新のご案内はホームページ、Instagramをご覧ください。



第十六号は
令和三年一月十五日
発行予定です